

FCU-Chan研究会 (2015年度) による 学生まちづくり活動の成果と活動意義に関する考察

岡 辺 重 雄 小 川 貴 士 今 津 海

要旨

近年、多くの地域において、地域活性化や地方創生の動きが拡大する中、新たなまちづくりの担い手として「学生」の存在が注目されている。日本初の都市経営学部を有する福山市立大学にも、学生が主体となり、広くまちづくりに係わる団体が存在するが、学生がまちづくりを行うことに対する本質的な理解が未だ進んでいないのが現状である。

本稿は、福山市立大学に本部を置くFCU実践・体験型プロジェクト研究会 (FCU-Chan研究会) を事例に、同会の取り組みや所属学生の活動意欲等の増進を切り口とし、同会が行う主体的な学生まちづくり活動による学習効果について考察した。さらには、学生がまちづくり活動を行うことにより、福山市 (本通) 商店街地域にどのような変化がもたらされたかという点についても言及した。

キーワード：学生まちづくり、福山市、FCU実践・体験型プロジェクト研究会、PDCA

1 はじめに

近年、多くの地域において、地域活性化や地方創生の動きが拡大しており、多様な主体が互いに連携をしながらまちづくり活動を行う事例が多々存在する。このような動きの中、新たなまちづくりの担い手として「学生」の存在が注目されており、多様な事例が報告されている (金丸 2014)。

日本初の「都市経営学部」を有する福山市立大学にも、学生が主体となり広くまちづくりに関わる団体が複数存在するものの、学生によるまちづくり活動の意義やその成果等については触れられる機会が少なく、学生がまちづくりを行うことに対する本質的な理解が未だ進んでいないのが現状である。

本稿は、2011年に開学した福山市立大学に本部を置くFCU実践・体験型プロジェクト研究会 (以下FCU-Chan研究会) を事例に、同会の取り組みや活動に対する所属学生の意識、意欲等の増進を切り口としながら、学生まちづくりに対する理解を深める

とともに、同会が行う大学の支援が乏しい状況下での主体的な学生まちづくり活動の学習効果について考察することを主たる目的とする。さらには、学生が主体的にまちづくり活動を行うことにより、福山市商店街地域にどのような変化がもたらされたのかという点についても併せて考察する。

2 FCU-Chan研究会の概略および2015年度の活動による成果

2.1 設立背景および活動目的

FCU-Chan研究会は、福山市立大学開学から1年後の2012年に設立された学生主体のまちづくり団体である (黒川 2014)。

同会は、福山市中心部を主なフィールドとしながら、衰退しつつある都市・地域を持続的に発展させることに寄与する調査、研究をはじめ、多様な地域活動の実践を通し、学生の新たな学びと実践的な社会貢献の機会を創出する (FCU実践・体験型プロジ

ェクト研究会2012：2) という理念のもと、学生の主体的なまちづくり、都市経営の在り方を模索しながら今日まで多様な活動を展開している。次節以降では、2012年以降の同会のこれまでの諸活動についてその概要を述べる。

2.2 サンタ大作戦の基本概要（2012年度～2014年度）

度)

サンタ大作戦は、FCU-Chan研究会並びに商店街関係者等により考案された福山市の冬季の催しであり、設立初年度である2012年度から2014年度までの期間は、同会の主要な活動の一つとして展開されてきた。各年度の具体的な企画内容については、表1の通りである。

表1 年度別サンタ大作戦の活動拠点および活動内容

年度	活動拠点	活動内容
2012	福山市中心部（商店街地域）	・学生（約100名）によるプレゼント配布
2013	福山市中央公園（ローズコム）	・降雪機による雪降らし ・飲食物の販売 等
2014	福山本通商店街（笠岡町公園）	・直径4mのクリスマスリースの製作 ・飲食物の販売 等

出典：活動報告書等をもとに筆者作成



図1 2012年度（平成24年度）の「サンタ大作戦2012」の様子
出典：笠木弘二氏撮影



図2 2013年度（平成25年度）の「サンタ大作戦2013」の様子
出典：笠木弘二氏撮影





図3 2014年度（平成26年度）の「サンタ大作戦2014」の様子
出典：笠木弘二氏 撮影

2.3 スチューデント・ディ（S-Day）の基本概要（2015年度）

スチューデント・ディ（以下 S-Day）は、アーケードの改修工事のために沈滞している 福山本通商店街地域を中心とし、学生発案の企画を毎月ごとに開催するという企画であり、2015年度から始まった新たな取り組みである。2015年度におけるS-Day

を中心とした諸活動は、過去3年間の主たる活動であった「サンタ大作戦」を活動の一つの核としながら、FCU-Chan研究会の活動の幅を拡大するとともに、月に一度の継続的活動を通じて事業運営能力向上並びに商店街との密接な関係の構築を主たる目的として展開された。各月の具体的な企画内容については表2の通りである。

表2 毎月のS-Day 開催企画および企画内容

開催日時	企画名称	主たる企画内容
2015年6月13日(土)	まち歩き&広島カープ戦パブリック・ビューイング	・商店街地域の散策 ・野球観戦
2015年7月25日(土)	二上り踊り伝承練習会	・二上り踊り公開授業への協力
2015年8月2日(日)	まちづくり×学生Café	・学生と地域住民との交流 ・まちづくり関連の知識の教授
2015年9月3日(木)	W杯サッカー日本代表戦パブリック・ビューイング	・サッカー観戦
2015年10月24日(土)	福山ハロウィンナイト	・仮装イベントの開催協力 ・飲食物販売
2015年11月14日(土) 2015年11月15日(日)	港輝祭 with FCU-Chan 研究会	・港輝祭（学園祭）への参加 ・特別講演会の開催
2015年12月20日(日)	サンタ大作戦 2015	・イルミネーションイベント（プロジェクトマップ）
2016年1月24日(土)	フリマ de もちつけ FCU-Chan	・餅つき並びにフリーマーケット

出典：活動報告書等をもとに筆者作成



図4 2015年6月・7月の「スチューデント・ディ」の様子
出典：FCU-Chan研究会会員 撮影



図5 2015年8月・9月の「スチューデント・ディ」の様子
出典：FCU-Chan研究会会員 撮影



図6 2015年10月・11月の「スチューデント・ディ」の様子
出典：FCU-Chan研究会会員 撮影



図7 2015年12月・2016年1月の「スチューデント・デイ」の様子

出典：FCU-Chan研究会会員撮影

ここまでは、FCU-Chan研究会の設立から今日までの具体的な活動についてその概要を述べたが、次節では、2015年度においてFCU-Chan研究会が実施した学生主体のまちづくり活動の成果について考察を行うこととする。

2.4 2015年度におけるFCU-Chan研究会の活動成果

2015年度の活動の成果を考察するにあたり、年度内に行われた各企画への参加者の人数および各活動による特筆すべき効果について表3にまとめた。

表3 各企画の参加者数および活動による主な効果

開催月	企画名称	参加者数	特記（効果）
2015年6月	まち歩き&広島カープ戦パブリック・ビューイング	学生10名 他14名	・地域との交流機会の創出
2015年7月	二上り踊り伝承練習会	学生28名 他11名	・FCU-Chan研究会の知名度向上 ・新規会員の確保
2015年8月	まちづくり×学生Café	学生12名 他3名	・他大学との交流機会の創出 ・新たな知識の習得
2015年9月	W杯サッカー日本代表戦パブリック・ビューイング	学生10名 他5名	・集客の難しさを自覚 ・情報共有の重要性を認識
2015年10月	福山ハロウィンナイト	学生18名 他221名	・市民の潜在ニーズの発見
2015年11月	港輝祭 with FCU-Chan研究会	学生16名 他38名	・活動のふりかえり機会の創出 ・集客の難しさを再認識
2015年12月	サンタ大作戦2015	学生15名 他235名	・新しい照明方法の提案
2016年1月	フリマ de もちつけ FCU-Chan	学生20名 他77名	・地域との交流機会の創出

出典：活動報告書等をもとに筆者作成

表3によれば、事業の規模は各月ごとに異なるものの、各事業とも一定程度の集客が存在し、多様な側面において、学生によるまちづくり活動の効果が表れているものと考えられる。また2015年度は、前年度よりも活動予算が減少し、事業の運営が困難であったにもかかわらず、大小様々な事業の企画、運営を行うことができたという点も加えて評価をしたい。

ここまでは、FCU-Chan研究会の2015年度の活動の成果について見てきたが、次章では、同会が行ってきた学生主体のまちづくり活動が、参加学生および商店街地域に対し、具体的にどのような変化をもたらしたのかということについて述べる。加えて、学生が主体的にまちづくりに参画することの本質的な意義についても考察する。

3 主体的な学生まちづくりによる効果と地域への影響

3.1 学生の実践的な学習・成長効果

図8から図10のアンケート調査⁽¹⁾の結果を見ると、過去数年間にわたり継続的に行われてきたFCU-Chan研究会の各種取り組みは、参加学生たちに、より実践的かつ主体的な学びの場を提供するという側面において、まちづくりを主体的に学ぶPBL (Project-Based Learning) の機会の創出という役割を担っており、延いては、参加学生の社会性の向上や成熟した自己の形成に大きな影響を与えていると考えられる。とりわけ2015年度の活動は、毎月ごとにイベント等を企画運営することで、短期的かつ継続的なPDCAを構築することが可能となり、結果的には、学生の企画、実行能力の向上に大きく寄与したと思われる。さらには、毎月の事業ごとに異なる代表者を選出し、各事業の企画、運営を同時並行で行うという組織形態を確立することにより、多くの学生が「代表者」としての組織運営の手法等を習得できたという点において、有効な手段として機能していると言える。しかし、同会所属の学生は常に同じとは限らず、卒業等により所属する学生の減少や入れ替わりは避けられない。そのため、新

規会員の確保策や次世代へのノウハウや活動理念の効果的な継承手法を構築していく必要がある。

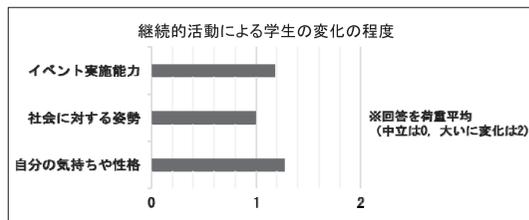


図8 FCU-Chan研究会の継続的活動による学生の変化程度について

出典：岡辺（2015）「学生まちづくりワークショップの体系化に関する実践的研究」より抜粋

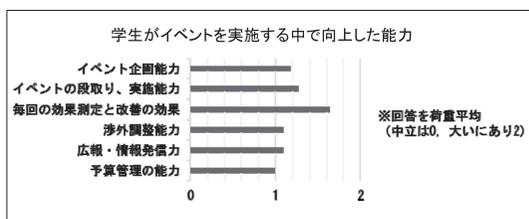


図9 学生がイベントを実施する中で向上した具体的な能力について

出典：岡辺（2015）「学生まちづくりワークショップの体系化に関する実践的研究」より抜粋

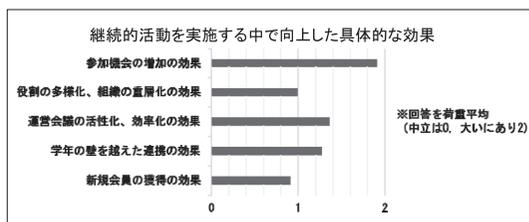


図10 継続的活動を実施する中で向上した具体的な効果について

出典：岡辺（2015）「学生まちづくりワークショップの体系化に関する実践的研究」より抜粋

3.2 商店街活性化につながる意識変革

本節では、2015年度におけるFCU-Chan研究会の活動地域である福山本通商店街地域について、同会の活動が与えた影響について述べる。

3.2.1 福山本通商店街と「とおり町ストリートガーデン計画」

福山本通商店街（以下 本通商店街）は福山駅から東に約500mの場所に位置しており、戦後より中心市街地東側において商業地としての役割を担ってきた地域である（図11）。

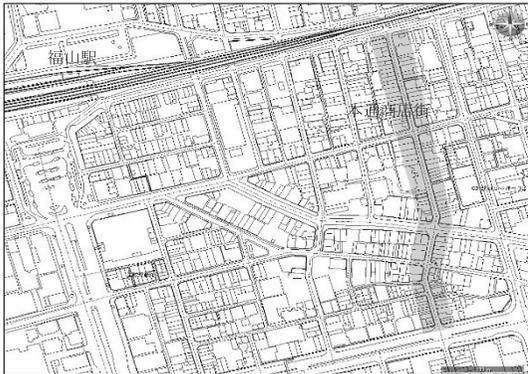


図11 本通商店街の位置

出典：小川・岡辺・奥山（2016）より抜粋

とおり町ストリートガーデン計画は、2014年から商店街、行政、民間事業者が協働し取り組まれている事業である。とおり町ストリートガーデン計画事業は商店街の変革をもたらすソフト事業とアーケード改修という単なる屋根工事にとどまらないオープンエアな空間と植栽を合わせるハード事業により4つの課題（商業活性化課題・生活快適性課題・文化創造課題・交通課題）を解決しつつ、「カフェテラスの似合う街（環境重視型住商空間）」となることで中心市街地活性化の一旦を担うことを目指している。

ソフト事業では①空き店舗活用事業（空き店舗バンクの創設やパイロット店の誘致）、②集客拠点整備事業（学生まちづくり団体の拠点や若年層を中心としたコミュニティ広場の形成、「まちなか寄席」等イベントの実施）、③周辺環境連携事業（隣接する商店街や関係学区内町内会との連携した地域伝統文化（二上がり踊り、福山とんどなど）の継承活動）がある。一方でハード事業は、アーケード撤去改修工事による「緑のアーケード街」がある。これ

は、ステンレスワイヤーを用いた世界初の太陽光を取り入れたアーケードや四季を感じる街路樹を用いることで、個性的な空間環境の整備がなされ、2016年7月に完成を迎えた。また今後は店主や地域住民が一緒になり、街路樹等の維持管理を行うための「グリーンパトロール隊」と呼ばれる管理組合を立ち上げる予定となっている。

2015年度のFCU-Chan研究会の活動は、とおり町ストリートガーデン計画の工事が行われている中、主に集客や変わりゆく商店街において多様な活動が展開された。

3.2.2 商店街店主へのアンケートの概要

FCU-Chan研究会の2015年度活動のフィールドであり、大規模な再整備を実施した本通商店街の店主に対し、FCU-Chan研究会の活動意義・評価に関するアンケート調査を試みた。

本調査研究に関わる主なアンケート項目は、①FCU-Chan研究会の認知度や活動への評価、②商店街活性化への貢献具合、③今後FCU-Chan研究会とどのような活動を行いたいのか、である。アンケートの実施概要は以下の通りである。

- ・実施日：2015年11月30日(月)
～2015年12月10日(木)
- ・調査方法：留め置きあるいはその場で回答
- ・分析方法：単純集計
- ・配布回収状況：表4の通り

表4 アンケートの回答数および回答率など

全店舗数	回答店舗数	回収率
72	50	69.5%

出典：筆者作成

3.2.3 アンケート調査結果と商店街の変化についてのまとめ

まずFCU-Chan研究会に関する認知度（図12）であるが、アンケートを回収できた50店舗のうち15店舗（3割）がFCU-Chan研究会を「知っている」とした。また「知らない」と回答した店主の中には、FCU-Chan研究会という名前は知らないがサン

タの活動を行ったグループなら知っているという認識の店主もいた。

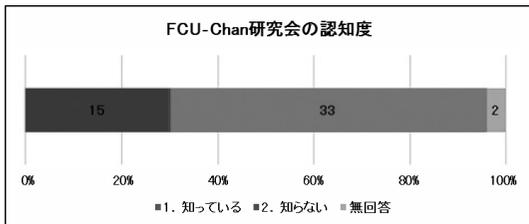


図12 FCU-Chan研究会の認知度

出典：小川・岡辺・奥山（2016）より抜粋

次いで、商店街活性化への貢献に関する項目（図13）では、15店舗のうち過半数の9店舗で「どちらともいえない」、「（活性化に貢献しているとは）あまり思わない」という回答であった。一方で、FCU-Chan研究会に対する活動評価と商店街活性化への貢献度に関する項目（図14）であるが、研究会を認知していた15店舗のうち13店舗の店主が「よく頑張っている」、「頑張っている」という評価であった。ゆえに、学生によるまちづくり活動がまだ活性化へは直結していないという事実は認められるものの、過半数を超える店主が学生によるまちづくり活動には一定程度の評価をしていることが読み取れる。

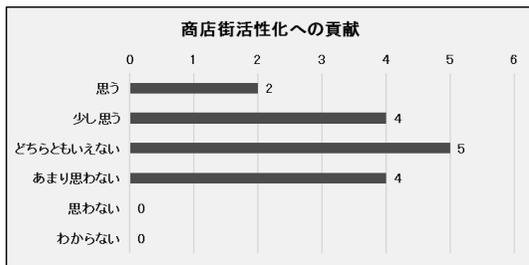


図13 商店街活性化への貢献具合

出典：小川・岡辺・奥山（2016）より抜粋

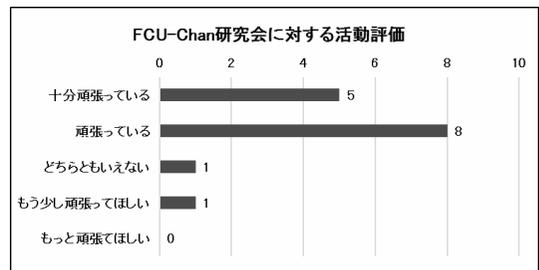


図14 FCU-Chan研究会の活動に対する評価

出典：小川・岡辺・奥山（2016）より抜粋

図12から図14より、商店街関係者の間で表面的な効果が表れるまでには、一定の時間経過が必要であり、商店街地域におけるまちづくり効果の波及はやや遅行気味であるといえる。しかし、学生活動を評価する団体や商店街関係者からの共同活動の要請が増加しているという背景を鑑みれば、FCU-Chan研究会の継続的取り組みが、福山市中心市街地の商店街関係者のまちづくりに対する従来の意識の変革に寄与しているだけでなく、商店街活性化に対する意欲の向上にも、一定の効果を発揮していると言っても過言ではない。

現在では本通商店街の再整備も完了しており店主のまちづくりに対するモチベーションに変化が生じている可能性があるため、FCU-Chan研究会の継続した活動に伴いアンケート調査を実施していく必要がある。

4 学生まちづくり活動の学習効果と今後の展望

4.1 学生まちづくりの学習効果

すでに述べた通り、FCU-Chan研究会が行っている学生の主体的なまちづくり活動は、参加学生たちに対し、実践的かつ主体的な学びの場を提供し、学生たちにPBLに基づいた主体的な活動を促すことによって、社会性の向上や成熟した自己の形成に大きな影響を与えていると考えられる。また、短期継続型の活動を通し、学生の企画、実行能力の向上のみならず、組織経営能力の向上にも大きく寄与している。このような点において、同会による学生まちづ

くり活動は、多様な学習効果を有していると言えるだろう。さらには、同会の諸活動が、地域住民のまちづくりに対する意識の変革にも一定の効果を有しているという点も併せて述べておきたい。

4.2 学生まちづくりにおける大学の位置付け

学生が諸活動を行う上では、所属する大学の後方支援および、諸活動に対する大学としての評価のあり方等が非常に重要な意味を有している。学生まちづくり活動が盛んに行われている北九州市立大学においては、同大の学生たちの支援機関として「地域共生教育センター」⁽²⁾が大学内の一組織として確立されており、同センターに所属する専任教員の協力のもと、多様な活動が企画、実施されている(図15)。

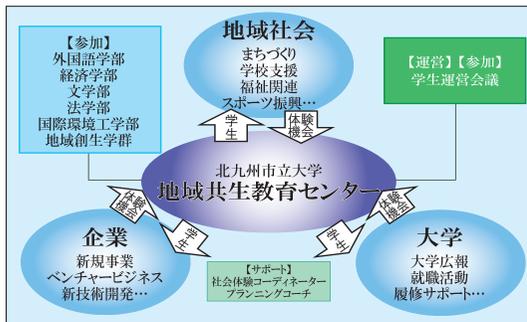


図15 北九州市立大学「地域共生教育センター」の位置付け

出典：http://www.kitakyu-u.ac.jp/chikyou/より抜粋

福山市において、学生によるまちづくり活動が今後も継続的かつ精力的に活動を行う上では、福山市立大学の後方支援が必要不可欠である。開学6年目を迎えた本年4月には、福山市立大学の事務局内の一部局として「地域連携担当」が設置され、大学としての支援体制づくりが本格化したことは大きな変化と言える。今後は、大学としてのより充実した盤石な支援体制の確立に一層の努力が求められることは言うまでもない。

4.3 市制施行百周年を迎えて

2016年7月1日をもって、福山市は市制施行百

周年という非常に大きな節目を迎えた。それに伴い、FCU-Chan研究会が主たる活動地域とする福山市中心市街地および商店街も新たな船出の時を迎えている(図16)。



図16 新しくなった本通商店街(とおり町ストリートガーデン)

出典：FCU-Chan 研究会会員 撮影

大きな変革が行われる本年において、FCU-Chan研究会の行う学生主体のまちづくりが地域社会にどのような影響を及ぼすのか、また、学生たちの成長にどのような効果をもたらすのかという点について、さらに詳細な研究を進める必要があると考えられる。

最後に、今後のFCU-Chan研究会の発展と、学生たちの真摯な取り組みに最大限の敬意を表し、本稿の結びとしたい。

脚注

- (1) 福山市立大学都市経営学部の岡辺重雄教授により実施された2015年度のFCU-Chan研究会所属学生を対象とした調査による。
- (2) 2010年4月に北九州大学内に設置された組織。同大の所在地が、北九州市小倉南区北方4丁目2番1号であることから「421Lab.」の名称が付けられた。

参考文献

- ・岡辺重雄（2015）「学生まちづくりワークショップの体系化に関する実践的研究」『福山市立大学 平成27年度重点研究中間発表要旨集』
- ・笠木弘二（2013）「福山市における産学官連携による中心市街地活性化に向けた試みー「学生」主導によるイベント創出社会実験ー」『都市計画研究講演集』11：27-30
- ・金丸 翔・三輪康一・栗山尚子（2014）「学生まちづくり活動の実態と評価に関する研究：関西の大学における都市計画系研究室の活動を事例として（都市計画）」『日本建築学会近畿支部研究報告会・計画系』54：585-588
- ・小川貴士・岡辺重雄・奥山健二（2016）「とおり町ストリートガーデン計画を契機とした高齢者の居場所形成への考察：福山市本通商店街を事例として」『日本建築学会中国支部研究報告集』39：865-868
- ・黒川加奈子（2014）「まちづくり活動の輪を広げるための広報についての研究」『福山市立大学都市経営学部 平成26年度 卒業研究論文』
- ・福山本通商店街振興組合・福山本通船町商店街振興組合（2016）『That's 福山とおり町』
- ・FCU実践・体験型プロジェクト研究会（2012）『FCU実践・体験型プロジェクト研究会（FCU-Chan研究会）会則』
- ・FCU実践・体験型プロジェクト研究会（2015）『年間活動報告書』
- ・眞鍋和博（2015）『シリーズ 北九大の挑戦2 「自ら学ぶ大学」の秘密ー地域課題にホンキで取り組む4年間ー』九州大学出版会
- ・北九州市立大学『北九州市立大学ホームページー地域共生教育センターー』
<http://www.kitakyu-u.ac.jp/chikyou/>
(2016年9月14日閲覧)

A Study on the Result and Significance of Student Community Development Activities by FCU-chan Project Group (2015)

Shigeo OKABE, Takashi OGAWA, Kai IMAZU

Today, many local areas are seeking revitalization or recreation of their space. In this context, students are regarded as key players of town revitalization. There are some student groups related to town revitalization in Fukuyama City University, which is the first university in Japan to have a Faculty of Urban Management. Nevertheless, study on the significance of the student groups on town revitalization is not progressing.

We are paying attention to the pro-active activities of the FCU-Chan project group (a project based learning group in Fukuyama City Univ.:"FCU-Chan"). So, this paper discusses the learning effects of the proactive activities, awareness of participating students and their acquired ability and positive mind. We also point out that a small change has been taking place in the shopping area (Hondo-ri Fukuyama, City) due to students efforts.

Keywords : Student Community Development Activities, Fukuyama City, FCU-chan project group, PDCA

DOI : 10.15096 / UrbanManagement.0905